安威川ダム周辺の魅力ある地域づくりについて ～住民参加によるダム周辺整備のとりくみ～

吉田　雄哉[1]

[1]大阪府　都市整備部　河川室河川整備課　（〒540-8586大阪府大阪市中央区大手前3-1-22）

本稿では，安威川ダム建設事業における住民参加型の地域づくりについて述べる．従来の行政主導の手法には，管理者として施す整備が利活用の妨げになるといった課題を抱えていた．これに対し，現在，安威川ダム建設事業者として取り組んでいる地域づくりにおいては，ダム建設段階からダム完成後の利活用者との意見交換等を実施，よりニーズにマッチした整備の実現を目指すものである．

キーワード　ダム，地域づくり，住民参加，周辺整備

1. はじめに

公共事業における事業完了後の周辺空間の利用について，行政機関が主導で実施してきた従来のやり方では，利活用者のニーズにマッチした整備が整っておらず有効な利活用の妨げとなることが少なくないとされる．そこで，安威川ダム建設事業では，事業実施中から，行政機関だけでなく周辺住民などの将来の利活用者の意見をワークショップなどから取り入れ，可能な限りニーズに応えた整備を実現し，ダム完成後の豊かな水辺空間の有効活用に向けて取り組みを実施している．

2. 安威川ダムの概要

安威川ダムは，大阪府茨木市（**図-1**）に建設中の治水ダムである．その起こりは昭和42年の北摂豪雨災害に端を発しており，ダム計画地点で690㎥/秒の洪水調節を行う計画である．

ダムの型式には，自然との調和も視野に入れ，中央コア型ロックフィルダム型式を選定している．安威川ダムの諸元を以下（**表-1**）に示す．

表-1　安威川ダムの諸元

型　　式	中央コア型ロックフィルダム
堤　　高	76.5 m
堤　頂　長	337.5 m
堤　体　積	2,225 千m^3
集 水 面 積	52.2 km^2
湛 水 面 積	81 ha
総貯水容量	1,800 万m^3

図-1　安威川ダム位置図

3. 周辺整備の考え方について

安威川ダム建設地の周辺には，北摂自然公園や近郊緑地保全区域が広がっており，オオタカやオオサンショウウオといった希少動物の生息が確認されているなど，豊かな自然環境が残されているほか，阿武山古墳などの歴史的な遺跡や名所旧跡も存在している．また，茨木市の市街地や彩都（国際文化公園都市）にも近接しており，名神高速道路や国道１７１号，整備中の新名神高速道路にも近く自動車によるアクセスに優れている．

加えて，ダム完成後は，広大なダム湖ができ水と緑に囲まれた貴重な水辺空間が創出されることから，地域の活性化に対する期待も非常に大きい．

また，昨今ではボランティア意識が高まってきており，ダム周辺地域の有する里山環境を活用した余暇活動やボランティア活動の場としての活用も望まれることから，安威川ダムの周辺地域の整備については，多くの府民に親しまれるものとしていくことが重要である．

こういった安威川ダム周辺地域の特性から，ダム湖を中心とした水と緑のオープンスペースを活用した周辺整備のあり方と，官民連携を含めた整備の進め方を示す基本方針を策定するために，有識者等で構成される「安威川ダム周辺整備検討委員会」を設置し，「安威川ダム周辺整備のあり方（提言）」をいただいた．その後，大阪府と茨木市とでこの提言を踏まえて共同検討し，また府民意見も取り入れて「安威川ダム周辺整備基本方針」を策定（2009 年 8 月 14 日）した．

この「安威川ダム周辺整備基本方針」において設定している基本理念は，「『未来につなぐ美しい自然，創造と湖畔の交流の里』“北摂の自然と人の織りなす美・自然と人との新たな調和”を目指して」としている．安威川ダムの周辺において，自然と人の営みの中で形成されてきた美しい景観や歴史・文化と，ダム湖により新たに生まれる地域景観は府民の財産であり，これらの財産を活かし，府民のレクリエーション需要に応えるとともに，水源地域の振興，地域間交流の活性化につなげることが必要となる．安威川ダムの周辺整備においては，文化の創造と交流の場として，「自然環境」「レクリエーション」「地域振興と地域間交流」の３つの観点の融合・調和を図りながら周辺整備を推し進めていくものである．

周辺整備計画の具体化に向けた取り組みとして，まず周辺地区の住民などに参画をいただきワークショップを行い，周辺整備の方向性について意見交換を実施した．ここで取りまとめた意見を元に，府民から公募したおよそ５０名と「安威川ダム周辺プランワークショップ」として意見のブラッシュアップを図った．ここでは，安威川ダム周辺の保全と活用の方法を参加者とともに考え，実施に向けての構想案を作成し，今後の周辺整備事業のイメージ共有を図った．

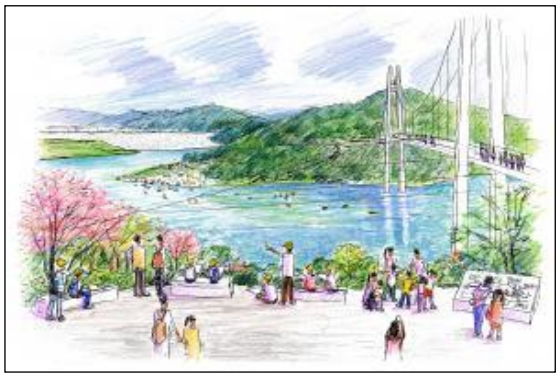

図-2　共有されたダム周辺整備イメージ

4. 利活用に向けた環境づくり

安威川ダム周辺整備の基本理念である「創造と湖畔の交流の里」を実現するには，周辺住民のみならず，様々な立場の人々の参画が必要不可欠である．そこで，安威川ダムでは，ダムの完成後にも様々な人が利活用できるための環境づくりを目指す手法として，様々の組織や，アーティスト，デザイナー，専門家，行政といった多様な立場の人が集まって，課題解決に向けての策を検討，提案を行う「官民共同の体制づくり（＝プラットフォーム形成）」を支援する「プラットフォーム形成支援事業」の制度を利用して，目標実現にむけて活動を行っている．

概念図に示しているとおり，行政を含むあらゆる属性の人々が，課題解決等に向けて，対等な立場で交流，対話を行う．

図-3　プラットフォームの概念図

このプラットフォーム形成において，ダム周辺と市街地との連携を目標としている．

ダム周辺（山間部）では，里山活動をはじめとしたダム周辺の環境保全活動の展開を目指し，また市街地（下流部）においては，ダム周辺の活用を図る教育や文化などの活動育成を促進する．各々のエリアにおける取組みを連携し，交流を深めることで環境づくりを進めていくものである．

また併せて，継続的な運営の仕組みづくり，活用と保全の担い手づくりといった目標も設定している．

運営の仕組みとしては，周辺の活用および保全に関する方向性を包括的に検討する協議会を設立，環境活動ならびに都市活動について各々の活動を検討するプラットフォームの構築を行うことで，自発的な継続運営を目指してる．

担い手づくりとしては，ダム周辺の活用と保全に寄与する各分野の関係機関・団体等とのネットワークを構築し，継続的に担い手を確保，あるいは拡大していく．

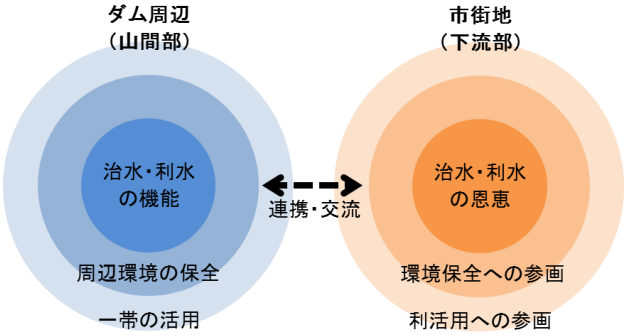

図-4　プラットフォーム形成の考え方

また，その活動の中で，ダムやその周辺地域について，活用したい，保全したいなどの魅力を感じて集まる人々をファンと位置づけ，そのファンにより構成される「安威川ダムファンづくり会」を設立している．（2014 年 3 月）

ファンづくり会の主なメンバーは，茨木市観光協会，安威川上流漁業協同組合，大阪府立茨木高等学校，大阪産業大学，ＮＰＯ法人 nature works，茨木市，大阪府などであり，さまざまな立場からの参画がなされている．

安威川ダムファンづくり会の設立目的は，ダム完成後のダム周辺地域を多くの人々に利活用してもらうため，より府民ニーズにマッチした「府民による自立型地域づくり」を推し進めること，ならびに担い手としてのファンを拡充することである．

自立型地域づくり，およびファンの拡充を図るために，安威川ダムファンづくり会として取り組んでいるものとして，「安威川フェスティバル」の開催が挙げられる．

図-5　安威川フェスティバル 2016 フライヤー

これは，安威川ダムファンづくり会が主催するイベントであり，安威川周辺の自然を守り，創造的な地域づくりを目指す人たちが出会う交流の場として活用いただくことがコンセプトとなっている．昨年（2016 年）は，第 3 回目の開催であり，そのテーマを「～体験して，学んで，楽しむフェスティバル～　一緒に創ろう！みんなの安威川」とし，思い出に残るようなプログラムを用意した．

地元自治会や，茨木市内の飲食店など，多くの方々にプログラム協力をいただき，約 1,300 名の方々にお越しいただき，大盛況であった．

図-6　安威川フェスティバル　全景

5.　おわりに

安威川ダム建設事業が佳境を迎えるなか，ダム完成後の周辺空間の利用に対する期待も大きくなってきている．

ダムが完成した後，いま，興味を持ち集まってきている以上の人々が，安威川ダム周辺空間に集まり，親しみ，活用し，また別の“ファン”を呼び込んでくれるような空間となるようニーズに即した整備がを進めるべく，周辺住民や“ファン”の方々とこれまで以上の交流の中で，最適な形の模索し，将来的には担い手による自発的な継続運営にシフトしていくものである．

付録

プラットフォーム形成支援事業とは，大阪府府民文化部が実施している事業であり，公共空間の利活用，地域の活性化，街づくりなど，単独の部局だけでは解決が困難な複合的な行政課題に対して，アーティストやデザイナー，府民，専門家などの多様な立場の組織や人が，“プラットフォーム”を形成し，行政主導ではなく，対等な立場で交流・対話を行い，アートやデザイン等をツールとして，解決策を検討し提案する官民共同の体制づくりを支援する事業である．